

Società Rossiniana Giapponese

日本ロッシーニ協会

歌劇《セミラーミデ》抜粋

—— ピアノ伴奏による楽曲セレクション ——



2012年11月26日 18時30分開演 さくらホール

主催：日本ロッシーニ協会

後援：イタリア文化会館

後援：公益財団法人 日伊協会

制作：金井紀子

マネージメント：ミリオンコンサート協会

歌劇《セミラーミデ(Semiramide)》

2 幕の悲劇的メロドラマ (melo-dramma tragico in due atti)

作曲 ジョアキーノ・ロッシーニ (Gioachino Rossini, 1792-1868)
台本 ガエターノ・ロッシ (Gaetano Rossi, 1774-1855)
原作 ヴォルテールの 5 幕悲劇『セミラミス (Sémiramis) 』(1748 年パリ初演)
初演 1823 年 2 月 3 日 ヴェネツィア、フェニーチェ劇場
人物 セミラーミデ Semiramide (ソプラノ) ……バビロニアの女王
アルサーチェ Arsace (コントラルト) ……アッシリア軍の司令官
アッスール Assur (バス) ……パール(セム族の神)の末裔の王子
イドレーノ Idreno (テノール) ……インドの王子
オローエ Oroe (バス) ……祭祀長
他にアゼーマ(パール神の末裔の王女)、ミトラーネ(王の衛兵隊長)、ニーノ王の亡霊、合唱とエキストラ

出演 天羽 明恵 (ソプラノ/セミラーミデ)
家田 紀子 (ソプラノ/セミラーミデ)
米谷 朋子 (メゾソプラノ/アルサーチェ)
阪口 直子 (コントラルト/アルサーチェ)
小山 陽二郎 (テノール/イドレーノ)
中井 亮一 (テノール/イドレーノ)
須藤 慎吾 (バリトン/アッスール)
小田桐 貴樹 (バス/オローエ)

日本ロッシーニ協会合唱団 ソプラノ：武部 裕美、柏川 翠 メゾソプラノ：片岡 美里、岩谷 美津子
テノール：中川 誠宏、工藤 翔陽 バス：山下 友輔、小野寺 光

ピアノ 金井 紀子
解説 水谷 彰良

日本ロッシーニ協会について

日本ロッシーニ協会 (Società Rossiniana Giapponese) は、ロッシーニとその作品の世界的規模の再評価、研究の飛躍的發展に鑑み、これを学問的に継承し、日本における研究・批評・著述・演奏にさまざまな角度から貢献することを目的に設立されました (1995 年 12 月)。名誉会長に 19 世紀イタリア・オペラの文献学的批判考証の世界的権威フィリップ・ゴセット教授 (ロッシーニ全集及びヴェルディ全集編纂最高責任者) を迎え、研究者と演奏家の相互協力、諸団体との交流を通じてロッシーニ復興の一翼を担うべく活動を続けております。

【主な活動と事業】

研究紀要《ロッシニアーナ》発行 (既刊 32 号)、会報《ロッシーニ通信》発行 (随時)
定期演奏会開催 (年 1 回)、例会の開催 (年数回)
協会公式ホームページ <http://societarossiniana.jp/>
後援 (ロッシーニ普及に寄与すると認められる上演、演奏会、イベントへの後援と協力)
国際協力 (海外の団体・研究者との交流、資料と情報の提供)

【組織】

名誉会長：フィリップ・ゴセット (Philip Gossett) 顧問：高崎保男
会長：水谷彰良 (2009 年より) 事務局長：金井紀子
運営委員：天羽明恵 家田紀子 小畑恒夫 小山陽二郎 阪口直子 千代田晶弘 村上光一 + 前記役員 (50 音順)
会員：一般会員及び本協会の活動を後援する個人/団体の特別会員
連絡先：日本ロッシーニ協会事務局 158-0085 東京都 世田谷区 玉川田園調布 1-11-11-102
TEL 03-3721-2084 FAX 03-3722-0426 e-mail akira642@mb.infoweb.ne.jp

会員随時募集中 (ロッシーニに関心のある方はどなたでも入会できます)
年会費：一般会員 1 万円 特別会員 3 万円 入会資料は上記事務局までファクス又はメールでお求めください。

歌劇《セミラーミデ》抜粋 本日の演奏曲

【第1幕 Atto primo】

- N. 1 導入曲より: 三重唱「彼方のガンジスより」～合唱と四重唱「多くの王と民衆が」
Introduzione: “Là dal Gange”～ “Di tanti regi e popoli” 天羽明恵 小山陽二郎
須藤慎吾 小田桐貴樹 合唱
- N. 2 アルサーチェのカヴァティーナ「ああ！あの日を絶えず思い出す」
Cavatina Arsace: “Ah! quel giorno ognor rammento” 米谷朋子
- N. 3 アルサーチェとアッスールの二重唱「神々の美しき姿」
Duetto Arsace - Assur: “Bella immagine degli Dei” 阪口直子 須藤慎吾
- N. 4 イドレーノのアリア「ああ、試練はどこに？」
Aria Idreno: “Ah dov'è il cimento?” 小山陽二郎
- N. 5 女声合唱「まなざしは晴れやかに」とセミラーミデのカヴァティーナ「麗しく美しい光が」
Coro di donne e Cavatina Semiramide: “Serena i vaghi rai”～“Bel raggio lusinghier” 家田紀子 女声合唱
- N. 6 セミラーミデとアルサーチェの小二重唱「忠実な心を持ち続け」
Duetto Semiramide - Arsace: “Serbami ognor sì fido il cor” 天羽明恵 米谷朋子

————— 休憩 (N.7 第1幕フィナーレはすべてカット) —————

【第2幕 Atto secondo】

- N.8 セミラーミデとアッスールの二重唱「もしも命が大切なら」
Duetto Semiramide - Assur: “Se la vita ancor t'è cara” 家田紀子 須藤慎吾
- N.9 シェーナの末尾とアルサーチェのアリア「この酷き災いの中で」
Scena [ultima parte] e Aria Arsace: “In sì barbara sciagura” 阪口直子 男声合唱
- N.10 イドレーノのアリア「とても甘美な希望が」
Aria Idreno: “La speranza più soave” 中井亮一 合唱
- N.11 レチタティーヴォの末尾、セミラーミデとアルサーチェの二重唱「よろしい…手を下しなさい」
Duetto Semiramide - Arsace: “Ebbene ...a te: ferisci” 天羽明恵 阪口直子
- N.12 シェーナ、合唱、アッスールのアリア「ああ！…止めろ…気を鎮め…許してくれ…」
Scena: “Il dì già cade”, Coro, e Aria Assur: “Deh!...ti ferma...ti placa...perdona...” 須藤慎吾 男声合唱
- N.13 第2幕フィナーレより: 末尾の合唱「来るのです、アルサーチェ、凱旋し、王宮に」
Finale II: [～Coro ultimo: “Vieni Arsace, al trionfo, alla reggia”] 全員

ピアノ伴奏 金井紀子

合唱 武部裕美、柏川翠、片岡美里、岩谷美津子
中川誠宏、工藤翔陽、山下友輔、小野寺光

出演者プロフィール



天羽 明恵 (あもう あきえ ソプラノ) Amou Akie (Soprano)

東京芸術大学卒業。オペラ研修所修了。文化庁派遣芸術家在外研修員としてシュトゥットガルトに留学。95 年第 6 回五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。同年ソニア・ノルウェー女王記念第 3 回国際音楽コンクールに優勝。ドイツを拠点にヨーロッパ各地の歌劇場と音楽祭に数多く出演、日本でも新国立劇場、サントリーホール・ホールオペラなどで活躍。99 年度アリオン賞、2003 年第 14 回新日鉄音楽賞フレッシュアーティスト賞受賞。日本ロッシェニ協会運営委員。サントリーホール・オペラアカデミーのコーチング・ファカルティ。



家田 紀子 (いえだ のりこ ソプラノ) Ieda Noriko (Soprano)

東京音楽大学卒業。小澤征爾指揮民音オペラ《スペードの女王》でデビュー以来、新国立劇場、藤原歌劇団、日本オペラ協会、東京室内歌劇場、日本オペレッタ協会など数多くの舞台に出演。ローマ、パリ、アイルランド、ルーマニア、シンガポール、ソウル、上海、大連に招かれるなど国内外で活躍。《夕鶴》のプロデュース主演は国内で 7 回、2012 年 5 月、池辺晋一郎《おしち》プロデュース主演。藤原歌劇団団員。日本ロッシェニ協会運営委員。日本演奏連盟会員。CD『永遠に』『宵待草』『歌に生き 恋に生き』をリリース。



米谷 朋子 (まいや ともこ メゾソプラノ) Maiya Tomoko (Mezzosoprano)

島根大学教育学部卒業。東京芸術大学卒業、同大学院オペラ専攻修了。藝大創立 120 年記念第 53 回藝大オペラ《ボエム》にムゼッタ役で出演。第 13 回世界オペラ歌唱コンクール「新しい声 2009」アジア予選決勝にて日本人唯一の代表に選ばれ、ドイツ・ギュータースローの世界大会に参加。オペラは《コジ・ファン・トゥッテ》ドラベッラ、《ルーチョ・シッラ》チェチャーリオ、《アルチーナ》ブラダマンテ等を演じ、宗教曲のソリストとしても活躍。日本声楽アカデミー会員。サントリーホール・オペラアカデミー・メンバー。日本ロッシェニ協会会員。



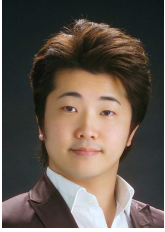
阪口 直子 (さかぐち なおこ コントラルト) Sakaguchi Naoko (Contralto)

武蔵野音楽大学卒業。東京芸術大学大学院修了。1984 年度文化放送音楽賞受賞。1985 年イタリア・シエナのキジアーナ音楽院夏期講習で最優秀賞を受賞。《第九》《メサイア》《クリスマス・オラトリオ》、《エリア》(N響定期、サバリッシュ指揮)、ブラームス《アルト・ラブソディエー》、マーラー《交響曲第 2 番 [復活]》等のソリストとして活躍。オペラは《オロンテア》《フィガロの結婚》《ランスへの旅》などに出演。アンサンブル「BWV2001」メンバー。日本ロッシェニ協会運営委員。国立音楽大学非常勤講師。



小山 陽二郎 (おやま ようじろう テノール) Oyama Yojiro (Tenore)

愛知県立芸術大学、同大学大学院修了。1994 年ミラーノに留学。カシナ・リリカ、ブダペスト両国際声楽コンクール、R・ブロージ歌曲コンクール、ドニゼッティ・ロッシェニの声コンクール第 2 位入賞のほか M・カラス、T・スキューパ、F・タリアヴィーニ等の各国際コンクールに入選。イタリア各地で《愛の妙薬》《セビリャの理髪師》《アルジェのイタリア女》《リゴレット》などに出演し、97~99 年にはハンガリー国立歌劇場でも活躍。日本ロッシェニ協会運営委員。昭和音楽大学及び大学院講師。藤原歌劇団団員。



中井 亮一（なかい りょういち テノール） Nakai Ryoichi (Tenore)

名古屋芸術大学声楽科首席卒業、同大学院修了。ミラノ・スカラ座音楽院オペラ研修所修了。2006年ヴェネツィア国際音楽祭、08年フェニーチェ歌劇場のコンサートなどに出演。2007年ロッシーニ・オペラ・フェスティバル若者公演《ランスへの旅》にベルフィオーレ役で出演し、L'Opera誌、朝日新聞などで好評を得る。イタリア各地で《椿姫》アルフレード、《ドン・パスクワーレ》エルネストなどを演じ、2010年藤原歌劇団《タンクレーディ》アルジーリオで本格的東京デビューを果たす。日本ロッシーニ協会会員。藤原歌劇団団員。名古屋芸術大学講師。



須藤 慎吾（すどう しんご バリトン） Sudou Shingo (baritono)

国立音楽大学卒業、同大学院修了。第37回イタリア声楽コンクールソシエナ大賞受賞、第42回日伊声楽コンクール第1位ならびに歌曲賞受賞、第21回ヴァルセゾリア国際音楽コンクール入選、第10回オルヴィエート国際オペラコンクール第2位。《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロールでオペラ・デビュー。7年間のイタリア留学中にミラーノを中心にイタリア各地の劇場に出演して好評を博し、ヴェルディ・バリトンとしても高い評価を受ける。国立音楽大学非常勤講師、同大学音楽研究所(オペラ部門)所員、藤原歌劇団団員。



小田桐 貴樹（おだぎり たかき バス） Odagiri Takaki (basso)

昭和音楽大学卒業。(財)日本オペラ振興会オペラ歌手育成部修了。昭和音楽大学オペラ《愛の妙薬》《夢遊病の娘》《ピーア・デ・トロメイ》、首都オペラ《ラ・ジョコンダ》《魔弾の射手》、文化庁芸術団体人材育成支援事業《フィガロの結婚》、藤原歌劇団《どろぼうかささぎ》《ランメルモールのルチア》などに出演。2009年、下八川奨学金、昭和音楽大学同僚会奨学金を得てフィレンツェに留学。ローマ市開催のフェスティバル《コジ・ファン・トゥッテ》《ラ・ボエーム》に出演。昭和音楽大学講師、藤原歌劇団団員。



金井 紀子（かない のりこ ピアノ） Kanai Noriko (Piano)

武蔵野音楽大学ピアノ科卒業、同大学専攻科修了。声楽のアンサンブルピアニストとしての実績は45年以上に及び、オペラの分野ではコレペティートルとして二期会、藤原歌劇団、東京室内歌劇場、東京オペラプロデュース、新国立劇場小劇場などで活躍。1988～89年文化庁芸術家在外研修員としてミラーノのスカラ座に留学し、イタリアのテレビ番組《リリカ・イン・サロット》のレギュラーピアニストを務め、T.ファブリーチーニ、M.レアーレなどのリサイタル伴奏も務める。日本ロッシーニ協会事務局長。昭和音楽大学名誉教授



水谷 彰良（みずたに あきら） Mizutani Akira (解説)

1957年 東京生まれ。オペラ研究者。日本ロッシーニ協会会長。フェリス女学院大学オープンカレッジ、朝日カルチャーセンター(新宿)講師。著書：『プリマ・ドンナの歴史』(全2巻、東京書籍)、『ロッシーニと料理』(透社社)、『消えたオペラ譜』『サリエリ モーツァルトに消された宮廷楽長』『イタリア・オペラ史』(音楽之友社)。『サリエリ』で第27回マルコ・ポーロ賞受賞) 共著：『オペラ・キャラクター解説事典』(音楽之友社)、『一冊でわかるクラシック音楽ガイド』(成美堂出版)、『魅惑のオペラ』(小学館。全30巻)ほか。

日本ロッシーニ協会合唱団 ソプラノ：武部裕美 柏川翠 メゾソプラノ：片岡美里 岩谷美津子
テノール：中川誠宏 工藤翔陽 バス：山下友輔 小野寺光

《セミラーミデ (*Semiramide*)》 2 幕の悲劇的メロドラマ (melo-dramma tragico in due atti)

作曲 ジョアキーノ・ロッシーニ (Gioachino Rossini, 1792-1868)
 台本 ガエターノ・ロッシ (Gaetano Rossi, 1774-1855)
 原作 ヴォルテールの 5 幕悲劇『セミラミス (*Sémiramis*)』 (1748 年パリ初演)
 初演 1823 年 2 月 3 日 ヴェネツィア、フェニーチェ劇場
 主な人物 セミラーミデ **Semiramide** (ソプラノ) ……バビロニアの女王
 アルサーチェ **Arsace** (コントラルト) ……アッシリア軍の司令官
 アッスール **Assur** (バス) ……パール (セム族の神) の末裔の王子
 イドレーノ **Idreno** (テノール) ……インドの王子
 アゼーマ **Azema** (メゾソプラノ) ……パール神の末裔の女王
 オローエ **Oroe** (バス) ……祭祀長

作品早分り

ロッシーニがイタリアで作曲した最後の歌劇でオペラ・セリアのジャンルの頂点をきわめる記念碑的作品。台本作家ガエターノ・ロッシはロッシーニ《結婚手形》と《タンクレーディ》の台本作者で、原作をヴォルテールの悲劇『セミラミス』(1748 年)に求めた。作曲は 1822 年 10 月 9 日にボローニャ近郊カステナーゾの別荘で始められたが 11 月に中断し、12 月にヴェネツィアで再開して翌 1823 年 1 月に完成した。全 2 幕は序曲と 13 のナンバーから成り、アンサンブルよりもアリアと二重唱を中心にした古典的な作劇だが、劇の様式はより堅固なものとなっている。華麗な歌唱技巧もこの作品で極限まで追及され、劇的な感情表現と崇高な音楽が高次に統合されている。1823 年 2 月 3 日にヴェネツィアのフェニーチェ劇場で行われた初演は成功を収め、ロッシーニの傑作として瞬く間に世界中に流布した。

あらすじ

バビロニアの女王セミラーミデはかつてアッスールと共謀して夫である前王ニーノを毒殺し、15 年経ったいま新たな王を指名する時を迎えていた。若い武将アルサーチェをひそかに愛する女王は、人々の前で彼を「王にして自分の夫となるべき者」と指名する。アッスールはアルサーチェへの復讐を企てるが、アルサーチェは自分がセミラーミデと前王ニーノの息子ニーニャであると祭祀長オローエに教えられる。やがてセミラーミデもその事実を知って絶望し、自分を殺して父の仇を討つようアルサーチェに求める。アルサーチェは母と和解してアッスールへの復讐に赴くが、暗い地下墓所で彼の剣に倒れたのはセミラーミデだった。アッスールは逮捕され、母を手にかけてアルサーチェは自分の運命を呪うが、すべては神意の成就とする民衆から新たな王に迎えられる

神話のセミーラミスとロッシ台本

セミラーミデは紀元前 9 世紀に実在したバビロニア人のアッシリア王妃サムラマト (Sammuramat) がギリシア伝説でアッシリア女王セミーラミス (Semiramis) となったもの。伝説中の彼女は幼い頃に捨てられ、鳩の運ぶ乳やチーズを食べて育ち、バビロニア王ニノスの死後、女王として君臨したものの、神託どおり息子ニニューアースが謀叛を企てたと知ると王位を譲って姿を消し、鳩となって昇天したという (セミーラミスはアッシリア語で「鳩から来た者」を意味)。台本作家ロッシはヴォルテールの劇を原作に神話の要素を捨て、原作に無いイドレーノを加えて人物相互の対立関係を鮮明に浮かび上がらせる。第 2 幕でアッスールが先王ニーノの亡霊を見て錯乱するシーンもロッシによる追加で、ロッシーニの素晴らしい音楽と共にヴェルディ《マクベス》祝宴の場と亡霊出現、マクベスの狂乱シーンのモデルとなった。

物語と聴きどころ (本日の演奏箇所を下線で示す)

紀元前 1200 年頃のバビロニアの王国。かつてアッスールと共謀して夫である王ニーノを毒殺したセミラーミデが女王となっている。ニーノは亡くなる直前に息子ニーニャを逃れさせ、行方不明となって 15 年が過ぎている。今や後継者選びの時が近づこうとしていた。

【第 1 幕】

第1曲 導入曲（本日は三重唱「彼方のガンジスより」から合唱と四重唱「多くの王と民衆が」までを演奏）

パール（セム族の神）を祀る神殿の中。祈りを捧げる祭祀長オローエに、復讐と裁きの時が近づいているとの神託が下る。神殿の扉が開き、民衆が讃歌で神を讃えると、インドの王子イドレーノが王位継承者として名乗りをあげる。続いてアッスールが自信たっぷりに野望をちらつかせるが、オローエの言葉に王殺しの過去が露顕しているのでは、と不安にかられる。民衆の歓呼の中、女王セミラーミデが現れる。新王指名への期待が満ちる中、彼女は密かに恋する若き武将アルサーチェの不在にとまどいつつ、王となるべき者の名を告げようとするが、突然雷鳴が轟き、祭壇の聖火が消えてしまう。恐怖にとらわれた人々は神殿を立ち去る。

★「インドから王位を継承するために来た」とのイドレーノの第一声に始まり、合唱を挟んでアッスールが同じ旋律で「女王は王位を継ぐ者を選ぶだろう」と力強く宣言する。それを聞いたイドレーノとオローエはアッスールの野心に気づく。女王セミラーミデの入場を歓迎する合唱が歌われ、セミラーミデを交えたカノン進行の短い四重唱となる。

第2曲 アルサーチェのカヴァティーナ「ああ！ あの日を絶えず思い出す」

人けのない神殿にアルサーチェが到着する。彼は自分が先王ニーノの息子ニーニャであるとは知らず、アゼーマ姫に思いを寄せている。そんな彼に、オローエは王の死とアッスールの裏切りを教える。

★アッシリア軍の司令官アルサーチェ(男装役)登場の歌。彼は自分が蛮族からアゼーマ姫を救出した日のことを思い出し、「ぼくはあの日から彼女のまなざしに心を奪われている」と熱い思いを吐露する。

第3曲 アルサーチェとアッスールの二重唱「神々の美しき姿」

神殿に戻ったアッスールが戦場を離れたアルサーチェを詰問し、アルサーチェはアゼーマへの愛を宣言して激しく言い争う。

★アゼーマへの愛を告白するアルサーチェのレチタティーヴォに続く二重唱は三つの部分からなり、アッスールが自分もアゼーマを愛していると告げて陰険になる。男女の低声の対比が見事なデュオで、「行け、傲慢な者よ」と歌う勇壮なカバレッタの旋律も特筆に価する。

第4曲 イドレーノのアリア「ああ、試練はどこに？」

王宮の広間。イドレーノがアゼーマ姫に愛を告白する。

★インドの王子イドレーノはドラマに深く関与しないが、各幕のアリアで華麗な技巧と高音を求められる。アゼーマに愛を誓うこのアリアは「あなたは私に希望を与え、勇気を取り戻させてくれる」と歌うカンタービレと、「愛しい人よ、このイドレーノだけがあなたに愛を捧げ続ける」と歌うカバレッタからなり、カバレッタに先立つカデンツァでハイDの超高音を歌う。

第5曲 女声合唱「まなざしは晴れやかに」とセミラーミデのカヴァティーナ「麗しく美しい光が」

王宮内の空中庭園。侍女たちに祝福されたセミラーミデはアルサーチェの帰還を喜び、再会できる喜びに胸をときめかせる。

★女声合唱に続くカヴァティーナは、劇的なレチタティーヴォで喜びを表明する前半部と、「ああ、甘美な思い、歓喜と愛の」とあふれる思いを華麗な技巧で歌う後半部からなる。ソプラノのための難曲としても有名。

第6曲 セミラーミデとアルサーチェの小二重唱「忠実な心を持ち続け」

衛兵隊長ミトラネが神託を記したパピルスを届けに来る。「アルサーチェの帰還と新しい結婚が心の平和をもたらす」と知ったセミラーミデが期待に胸を熱くしていると、アルサーチェが帰還の挨拶に訪れる。彼はアッスールが王位とアゼーマ姫を狙っていると不信を述べるが、女王はこれを否定する。セミラーミデはアルサーチェが自分に捧げる忠誠を愛と誤解し、アルサーチェは女王がアゼーマとの結婚を認めたと考え、二人は喜びにひたる。

★ベルカントの旋律が織りなすハーモニーと声の絡み合いが美しい小二重唱。旋律と歌詞の一部を共有しながらもそれぞれの思いはすれ違い、最後にアレグロに転じて「あなたのために死にましよう」「いいえ、私のために生きるのです」と華麗に締め括る。

第7曲 第1幕フィナーレ（本日はカット）

先王ニーノを祀る部屋に繋がる宮殿内の大広間。新王決定を待つ貴族たちの合唱に先導され、一同着席する。セミラーミデは全員に忠誠を誓わせうえで王に選ばれる者が自分の夫になると告げ、アルサーチェを指名する。思いがけぬ行きに一同驚き混乱するが、女王は譲らずアルサーチェを人々に示し、彼がニーノとその王子の代わりであると宣言する。すると突如地鳴りがし、稲妻が光る。一同怖れをなすと、王の石棺が開いてニーノの亡霊が現れる。皆が恐怖に凍りつくなか進み出た亡霊は、アルサーチェが王国の支配者となること、だがその前に自分の墓前に罪ある者の生け贄が捧げられねばならぬ、と予言する。生け贄の名が告げられぬまま、亡霊は許しを請うセミラーミデに、「神々が望まれるとき、お前を呼ぶであろう」と言い残して再び墓に戻っていく。恐ろしい光景に、全員パニックに陥る。

【第2幕】

第8曲 セミラーミデとアッスールの二重唱「もしも命が大切なら」

宮殿の大広間。アッスールが現れ、セミラーミデと王殺しの責任をめぐって口論となる。女王はアッスールにそそのかされて行った夫殺しを後悔しているが、アルサーチェと結ばれることに一縷の希望を託す。アッスールは、自分の窮地にやぶれかぶれとなって復讐を誓う。

★セミラーミデとアッスールによる壮大な二重唱。セミラーミデは女王としての威厳を示してアッスールに立ち去るよう命じるが(開始部)、アッスールは女王に先王の亡霊出現の恐怖を思い出させる(中間部)。だが、セミラーミデは毅然としてアッスールを王として崇めるよう求め、戦う女の力を取り戻した私があなたを罰する、と宣言して激しく対立する(カバレッタ)。

第9曲 シェーナの末尾とアルサーチェのアリア「この酷き災いの中で」

聖堂の内部。オローエと僧侶たちの祈るなかアルサーチェが現れる。アルサーチェはオローエから自分が王の息子ニーニャでセミラーミデが母であると告げられ、父が臨終の際に残した書きつけによってアッスールの裏切りと母の罪を知る。オローエから父の形見の刀を受け取り、アルサーチェは裏切り者への復讐を誓うが、母への思いを絶ち難く苦悩する。

★シェーナの末尾で父の書状を読んだアルサーチェは、アッスールが父を毒殺したと知って悲しみにくれる。だが、僧侶たちから復讐を励まされ、「そうだ、復讐だ、剣を与えよ」と応じるカバレッタとなる。そこでの激しい音楽技巧には、揺れ動く心情も巧みに盛り込まれている。

第10曲 イドレーノのアリア「とても甘美な希望が」

セミラーミデの部屋。アゼーマが女王にアルサーチェを奪われたと嘆いている。立ち聞きしたイドレーノは姫の思いがアルサーチェにあると知ってショックを受けるが、なおもアゼーマに求愛する。

★イドレーノ二つ目のアリア。「とても甘美な希望が、この魂を喜ばせる」と歌う叙情的な旋律で始まり、二人を迎えに来た人々の合唱を挟み、「あなたに愛される喜びを望みたい」と高度な技巧を駆使するカバレッタで締め括る。

第11曲 レチタティーヴォの末尾、セミラーミデとアルサーチェの二重唱「よろしい…手を下しなさい」

誰もいない部屋にセミラーミデがアルサーチェと共に入ってくる。アルサーチェが実の息子と知らぬ女王から夫と呼ばれ、たまりかねたアルサーチェは父ニーノの書状を見せる。恋する男が息子と知った女王は絶望し、自分を殺して父の仇を討つよう求めるが、アルサーチェにはできない。二人は和解し、アルサーチェは母に別れを告げてアッスールへの復讐に赴く。

★先王ニーノの書状を見たセミラーミデは、アルサーチェが自分の息子と知る(レチタティーヴォの末尾)。続く長大な二重唱は三つの部分からなり、すべてを理解したセミラーミデが「私を殺しなさい」と激しく求めて始まるが、「邪悪な母を罰して父の恨みを晴らしなさい」の部分で音楽が優しさを帯びる(開始部)。アルサーチェの涙を見たセミラーミデは感動し、二人は抱き合って慰め合う(美しい二重唱の主部)。セミラーミデは復讐に向かう息子に、勝利して戻るよう訴える(カバレッタ)。

第12曲 シェーナ、合唱、アッスールのアリア「ああ！…止める…気を鎮め…許してくれ…」

ニーノ王を祀る部屋に続く王宮の一室。アッスールがアルサーチェを亡きものにする決意を固めていると、太守たちが民衆の離反で反乱に失敗したと報告に来る。アッスールはなおも復讐を諦めないが、突然亡霊の幻に脅え、錯乱する。幻の見えぬ太守たちが啞然として見守るなか、再び正気を取り戻したアッスールは、「今のは夢であった」と恐怖を振り払い、怒れる神と亡霊に挑む決心をする。

★ドラマティックな序奏に続いてアッスールが恐怖にかられる。高官たちから反乱の失敗を聞かされた彼は、自分独りでも復讐すると叫ぶが、亡霊の幻を見て錯乱し、許しを請う。これはロッシーニの傑出した作曲手法を駆使した狂乱の場で、ヴェルディ《マクベス》の亡霊出現とマクベス狂乱に影響を与えている。やがてアッスールは正気を取り戻し、「神々に、運命に、死の亡霊に打ち勝って見せる」と力強く宣言して太守たちを鼓舞する。

註：このオペラの白眉であるアッスール狂乱の場とアリアを本日のクライマックスと位置づけ、続いて第2幕末尾の合唱を全員で歌い、本日の演奏を終わります。

第13曲 第2幕フィナーレ (末尾の合唱「来るのです、アルサーチェ、凱旋し、王宮に」のみ演奏)

ニーノの地下墓所。オローエに先導されたアルサーチェが現れる。不吉な予感にとらわれるアルサーチェに対してオローエは、「何も考えず剣を振り下ろせば、後は神が導かれましょう」と励ます。続いてアッスールとセミラーミデが墓所に現れるが、暗くて互いの姿が見えない。女王は夫の墓前に跪いて罪の許しを請い、息子を守るよう祈る。暗闇の中で恐怖に襲われるアッスールとアルサーチェ。その刹那、オローエの「今ですぞ、ニーニャ様」の声にアルサーチェは夢中で剣を振り下ろし、セミラーミデがその場に崩れ落ちる。新しき王アルサーチェがニーニャであり、すべては神の思し召しと宣言するオローエ。アッスールは逮捕され、母を手にかけてと知ったアルサーチェは自分の運命を呪う。だが、新王の誕生を歓迎する歓呼の合唱が湧き上がる。

★幕切れに歌われる、アルサーチェを新たな王に迎える短い合唱。